

長太天王祭の山車行事 文化財指定理由書

1. 名称

長太天王祭の山車行事

2. 所在地

三重県鈴鹿市北長太 飯野神社 ほか

3. 種別

無形の民俗文化財（風俗慣習・祭礼）

4. 由来・沿革

本祭礼は、天正 18 年（1590）に鈴鹿川堤防の決壊によって集落が被災し疫病が流行した際、村人が尾張国の津島神社に参詣して祈祷を受けたことを契機として始まったと伝えられる。参詣した三組のみが平癒したという伝承に基づき、以後、疫病除けの報賽行事として毎年 8 月 1 日に斎行されてきた。大正期に雨天中止となった年に疫病が再流行したとの伝承も残り、地域社会において本祭礼が疾病鎮静の靈験をもつ行事として認識されてきたことが確認できる。

5. 内容および特色

本祭礼は牛頭天王信仰に基づく疫病除け儀礼を中核とし、山車の巡行、提灯奉飾、神前奉納行為など複合的要素から構成される。かつては鈴鹿市北東部や四日市市楠町方面からの参詣者も多く、一定の広域信仰圏を形成していた点は注目される。また、天王祭系統の祭礼は東海地方に分布するが、県内現存例は少なく、地域的希少性を有する。なお、尾張地方では名古屋市出来町のからくり奉納や西尾市の山車祭礼など多様な展開が見られ、本祭礼も同系信仰の地方的展開例として学術的価値が認められる。

6. 学術的評価

本祭礼は、疫病退散祈願という民間信仰の実践形態を現在に伝える点、ならびに近世以前に成立した可能性をもつ伝承を保持する点において、地域信仰史・民俗祭祀研究上重要である。ただし、祭礼構成要素には時代的变化の痕跡が認められ、提灯表記の差異、装飾様式、儀礼内容などに後世的要素が混在することが確認される。

7. 保存活用上の課題

近年は少子高齢化および担い手不足の影響により、祭礼形態の簡略化や変更が進行している。とりわけ山車上で行われる獅子舞は、その内容が豊作祈願的性格を示すこと、地域古老の証言や構成要素の様式からみて比較的新しい時期に付加された可能性が高いこと、さらに演出・所作・構成が年々変化し固定性を欠くことが指摘できる。

このような性格を踏まえ、当該獅子舞については祭礼の歴史的な中核をなす疫病除け儀礼とは性格を異にするものの、今日における祭礼構成の一要素として位置付けられるものである。したがって、指定対象は祭礼儀礼・山車行事・信仰習俗を中心としつつ、獅子舞についても祭礼の構成要素として包含する。ただし、その実施場所については指定の範囲から除外し、保存活用にあたっては安全性を確保して実施し、記録保存を行っていくことが適当である。

8. 指定の理由

以上のとおり、本祭礼は

- 地域に伝承される疫病除け信仰を現在に伝える希少な事例であること
- 広域信仰圏を背景とする歴史的祭礼形態を保持すること
- 地域社会の歴史的変遷を示す民俗資料として価値を有すること

から、地域の無形民俗文化財として保存措置を講ずる必要がある。よって本祭礼を文化財として指定し、記録保存および継承支援を図ることが望ましい。